

第7回伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会 会議録

開催日	平成30年6月26日(火)			
開催時間	開 会	午後3時	閉 会	午後4時20分
開催場所	市役所 多目的ホール			
委員出席者	伊那市区長会 南箕輪村区長会 伊那中央行政組合 伊那市社会福祉協議会 伊那商工会議所 箕輪町商工会 南箕輪村商工会 上伊那農業協同組合 上伊那森林組合 伊那バス株式会社 ジェイアールバス関東株式会社 中央道支店 有限会社 白川タクシー 長野県宅地建物取引業協会 南信支部 伊那市観光協会 NPO 法人子ども・若者サポートはみんぐ 上伊那 PTA 連合会	唐澤 規夫 三澤 稔 宮原 文彰 矢澤 秀樹 小林 旬子 向山 淳 中川 博夫 山岸 哲夫 原 武志 福澤 信義 名和 進 白川 光朗 大村 裕一 中村 忠人 戸枝 智子 赤羽 隆行		
欠席者	箕輪町区長会 伊那市保育園保護者会 信州大学 公募	青木 俊夫 埋橋 辰典 鈴木 純 杉山 祐樹		
委員以外の出席者	上伊那地域振興局企画振興課長	山邊 英夫		
出席した事務局職員	伊那市企画部長 伊那市企画部地域創造課長 箕輪町企画振興課長 南箕輪村地域づくり推進課長 伊那市企画部企画政策課長 伊那市保健福祉部子育て支援課長 伊那市企画部地域創造課課長補佐 伊那市企画部地域創造課人口増推進係長 伊那市総務部総務課人事係長 南箕輪村地域づくり推進課企画係長	飯島 智 下平 明彦 毛利 岳夫 田中 俊彦 重盛 巧 網野 喜彦 小川 貴 田中 久 高松 慎一 山口 弘一郎		
議 事	(1) 伊那地域定住自立圏構想について (2) 共生ビジョンの進捗状況について			

配布資料	資料 1	伊那地域定住自立圏構想について
	資料 2	伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会条例
	資料 3	伊那地域定住自立圏 経過
	資料 4-1	伊那地域定住自立圏共生ビジョンの進捗状況について
	資料 4-2	平成 29 年度「伊那本線」「市街地循環線内回り」利用実績
	資料 4-3	平成 29 年度病児・病後児保育施設、子育て支援センター利用実績

1 開 会

2 委嘱書交付

林副市長から各委員に委嘱書を交付

3 副市長あいさつ

本日は、伊那地域定住自立圏共生ビジョン協議会にご出席いただき、感謝申し上げます。ただ今は、本協議会の委員として委嘱させていただいた。

伊那地域定住自立圏については、伊那市、箕輪町、南箕輪村の住民の皆さんの利便性が高まるように、3市町村が相互に連携協力を図りながら、これまで圏域の物件情報をまとめて発信する「空き家バンク」ホームページの構築や圏域を縦断する伊那本線などのバスの試験運行、職員のレベルアップを図るための合同職員研修、子育て支援として各市町村の子育て支援センターを相互利用できる体制の構築、さらに伊那中央病院の「病児・病後児保育施設」の新設などに取り組んできた。

今年度は共生ビジョンの中間年に当たり、3市町村での取組が住民サービス向上に繋がるよう、委員の皆様から御意見・御提言をいただき、施策に反映していきたいと考えているので、本協議会での活発な議論をお願いしたい。

委員の皆様には、お忙しい中とは存じますが、今後とも格別の御理解と御協力をお願いしたい。

4 自己紹介

5 副会長の選出について

委員互選により以下のとおり選出

- ・会 長：唐澤 規夫 委員（伊那市区長会 会長）
- ・副会長：青木 俊夫 委員（箕輪町区長会 会長）
- 三澤 稔 委員（南箕輪村区長会 会長）

6 会議事項（進行：唐澤会長）

（1）伊那地域定住自立圏構想について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： （資料 1～3 により説明）

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

（特になし）

(2) 共生ビジョンの進捗状況について

会 長： 事務局から説明をお願いします。

事務局： (資料4により説明)

会 長： 説明内容について、御意見、御質問等はあるか。

委 員： 「空き家バンク」について

K P I の平成 29 年度の実績が目標値を大きく上回っているが、目標値を上方修正する予定はあるのか。

事務局： 今後、空き家バンク部会の中で、検討していく。

委 員： 「子ども子育て関連事業間での協力体制の検討・構築」について

K P I のうち、病児病後児保育登録者数は平成 29 年度の実績では目標値に達していないが、今後、達成に向けてどのように取り組んでいくのか。

事務局： 3市町村の保育施設にチラシを配付し、周知を図っている。また、平成 29 年度では目標値に達しなかったが、今年 2 月に「あるぷす」が開設したことにより、今年度の登録者数は順調に推移している。

委 員： 「バスによる行政区域間縦断路線の試験運行」について

K P I の平成 29 年度の実績では目標値に達していない中、今年度はバスの運行を平日 9 便から 7 便に減便しているが、今後、目標値を変更する予定はあるのか。

事務局： 利用状況については、少しずつ利用者が増加している。今年度は、3市町村で高齢者を主な対象とし、健康づくり講座などにおいて、お試し乗車券を配付するなど、利用促進を図っていく。

また、K P I の目標値については、数値が高すぎるとの指摘もあることから、今後、部会の中で調整を図っていく。

委 員： 「合同職員研修」について

K P I を研修の実施回数としている理由と実施による成果をどのように把握しているのか。

事務局： 本事業はマネジメント能力の強化を目的としており、受講者個人の成果を数値として測ることは困難なため、受講者数とアンケート調査を通じて成果を把握している。

委 員： 民間企業においても人事育成は難しいところではあるが、受講者が前向きになれるように取り組んでいただきたい。

委 員： 今年度は共生ビジョン期間（5年間）の折り返しとなり、期間後半の取組が大事になってくることから、既に実績が目標値に達している事業のK P Iについては、目標値を上方修正してもらいたい。また、子育て支援など3市町村が共通して取り組み、成果が挙がっていることをアピールしていくことで、定住自立圏構想の目的である人口定着に繋がってくる。

また、地域公共交通については、K P I の実績と目標値にかなりの差があるものの、運行内容の見直しや利用促進の効果により、利用者は増加傾向にあることは評価すべき。また、今後、地域公共交通の利用は増えていくことから、持続可能な取組となるように、将来を見据えて常に見直しを図りながら、取り組んでももらいたい。

事務局： K P I の現状値と目標値が乖離していると、取組への意欲の低下などに繋がってくることもあるため、今後、各部会において調整を図っていく。

また、人材育成については、今後、3市町村の合同職員研修だけで留まらず、まちづくりに繋がる地域の資源や魅力などを学ぶことを目的に、少しずつ官民での取組に高めていきたい。

委員：子育て支援として、経済的な理由により居場所がない子どもがいる現状を踏まえ、「信州こどもカフェ」を推進するような施策の検討もお願いしたい。

委員：地域公共交通については、現在の運賃収入だけで維持していくことはかなり厳しい状況にあるため、目標等を検討しながら、残りの3年間をしっかりと取り組んでいただきたい。

委員：昨年度、伊那本線については、沿線にある高校生の利用を見込んでいたが、予想に反して利用が少なく、また昼間の利用も定着せず、全体として利用者数が低調であった。今後、高齢者や自動車免許の返納者が増加していく中で、医療施設・商業施設の利用を見越して、昼間の便を増やすなど、多くの方に利用していただけるよう取り組んでいきたい。

委員：空き家バンクは県外から移住してくる方の利用が多いのか。

事務局：利用者は県外などからの移住希望者だけではなく、市内の方が住み替えを目的として利用する場合もあり、市内の定住等に繋がっている。

委員：移住希望者は自然や癒しを求めてくる方が多いと思われるので、農業や自然環境を活かした移住施策も検討していただきたい。

委員：KPIの空き家バンク登録件数が増加している要因は。

事務局：市町村ごとに登録促進の補助制度が充実していることや空き家バンクホームページ開設によるPR効果が主な要因として考えられる。

アドバイザー：共生ビジョンの内容については、KPIの実績値が目標値に達成している場合は数値が適正であるかどうか、また未達成の場合は原因等を分析・検証し、必要に応じて見直しをしていくPDCAサイクルが大事である。

また、子育て支援センター利用料の無料化など、取組内容の積極的なPR、さらに新たな取組の掘り起しなど、今後の積極的な取組に期待したい。

(3) その他

特になし

7 その他

特になし

8 閉会

三澤副会長より閉会が宣言される。